

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立大島中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0613
宮城県気仙沼市高井40番地

E-mail ohshima-chu@kesenuma.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 16名 女子 21名 合計 37名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、「創造・友愛・前進」を活動テーマとして、ESDを「ふるさと教育の充実」と捉え、ESDの実践を通してふるさとの発展に寄与するの育成を目標とした。

海洋教育に関する4つの観点「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」を柱に、教科・領域を合わせた指導で横断的、継続的に取り組んだ。

具体的には、海洋教育を柱に、①ホタテ養殖体験に係わる活動、②海を利用する交流学习 ③「ソーラン節」を活用した創作舞踊と大島をテーマにした歌謡「あすなろ」の合唱 ④海に親しむ、櫂練りとウニ漁等体験学習 ⑤海を知る漂流物調査 ⑥海を守る海岸清掃などに取り組んでいる。

① 養殖体験に関わる活動

4つの柱の総合的な海との関わりで、ホタテ貝の養殖の体験活動に取り組んだ。小学校6年生で、採苗器作りやホタテの稚貝の採取を行い、また、分散作業まで行っているものを、中学校1年生では、ネットからホタテ貝を取り出し、「背ばたき」と言われる貝の付着物のクリーニングを行い、貝殻の外側の端に穴を開け、筏につるす「耳つり」を体験した。

2年生では、さらに海の中で1年間成長させたホタテ貝の水揚げを行った。筏からの巻き上げ作業の補助や手作業での付着物の除去を体験した。

3年生は、2年生で水揚げしたホタテを出荷し、そこで得た収益を活用して、

11月には、漁協女性部の方々を講師としてホタテ調理実習に取り組んだ。

② 海を活用した交流活動

本校では、東京都の目黒区立東山中学校との交流を行っている。東山中の1年生が約130名との交流会である。海を活用し交流が深めることができることができないかということで、1つの思いを文字で砂浜に表現してみようかと、両校で海岸での砂文字制作を行った。どのような言葉にするか、どのようにレタリングするのか、砂を掘るのか浮き出させるのか、準備物として必要物は何かなど多くの課題を解決し取り組んだ。最後に完成した砂文字を背景とした記念写真は、両校のそれぞれの思いが込められた素晴らしい1枚となり、両校の昇降口やホームページ上を飾っている。

③ 海との関わりを表現する活動

海での勇壮な活動を表現する「ソーラン節」を基板として、毎年本校なりに生徒自身が表現方法を創作し、踊りを仕上げています。

運動会などで紹介し、島の人々に元気をもらえると非常に喜ばれている。特に、震災後に島の協力をいただいて作った大漁旗をもとにした法被での演舞は大漁旗がはためくように元気良く、好評を得ている。

また、あいにくの天候で海での交流が行えない場合には、このソーラン節を覚えてもらい、島の人々に元気をもたらした法被をきて、みんなで踊り、交流を深めることにも活用している。

市内の小中学校で行う音楽祭では、小学校との合同で合唱に取り組んで、大島の詩人水上 不二の「あすなろ」を練習し、発表している。詩に込められた意味等を理解しながら、また、小学校6年間、中学校3年間合計9年間歌い上げるわけであるが、その都度子ども達は、新たな発見をしながら取り組んでいる。島の詩人の歌を島の子どもが歌うことで、意味合いが深くなり、聞き手にも大きな感動を与えている。

④ 海に親しむ櫂練りとウニ漁等の体験

櫂を使った操船体験や箱めがねを使っての魚介類観察等体験は、大島の生徒たちでもあまり多くない。先人から受け継いだ文化を体験させたいという思いからこの体験会が実施され続けている。生徒は、はじめはなかなか思うように船を動かさずにいたが、次第に船を進められるようになり、海中の海藻や魚介類を箱めがねで見ながら採取もできるようになった。もちろん採取したものは、規格外の大きさであるので、その後はリリースしている。

活動記録写真

①・海に関する総合体験 ホタテの養殖体験学習 「耳吊り」体験 1年生



・海に関する総合体験 ホタテの養殖体験学習「水揚げ」 2年生



・海に関する総合体験「ホタテの調理実習」3年生



② ・海を利用する「交流学习」全校



③ ・海との関わりを表現する「ソーラン節」を活用した創作舞踊と交流会



③ ・海戸の関わりを表現する
市内音楽祭
「あすなろ」発表の様子



運動会の「島中ソーラン」
発表の様子（雨のため体育館で開催）



④・海に親しむ、「櫂練りとウニ・カキ・アワビ漁体験学習」 1年生



・海を知る「漂流物調査」 全校



(2) 活動の詳細

① 活動内

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

・インターネット ウェブサイト [青森県産業技術センター](#)

- ① ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育計画の学校経営概要の重点努力事項では、創意に満ちた特色ある学校づくりの中の①地域の教育資源を生かした学習活動の推進（海洋教育・ホタテ養殖体験と掲げている。また、開かれた信頼される学校づくりの中にも地域の教育力を生かし、地域とともに教育活動の推進を目指している。指導内容は、体験的な学習を主軸として、総合的な時間を活用し取り組んでいる。また、学期末の職員の運営反省会で、その活動の反省を先生方から頂き、次学期にすぐ改善できること、次年度に改善すること等を考えながら指導方法の改善に取り組んでいる。

- ② 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）
※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌でも、研究部の教科外研究部の中に ESD/ふるさと教育という分掌を設定し、その分掌を中心に取り組んでいる。また、この分掌は、総合的な学習の時間の分掌とも連携を図りながら、さらには学年部とも連携を図り、さらなる充実を目指している
校内研修日には、各学年から必ず海洋教育の情報を提供し、海洋教育の情報の共通理解につとめ、次年度等の改善に役立てている。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動は、主に総合的な学習の取組を通して評価している。学期末の職員評価の総合的な学習の時間の反省から活動の評価を出し、教員の指導と生徒の変容、地域との協働についての検証をしている。
本校の総合的な学習の時間は、体験活動を基盤として取り組む事がポイントとなっているが、体験にと留まらずに、探究的・開発的な方面での取組まで深めることができないかという課題が指摘された。
この点では、今後生徒達にどのような力を身に付けさせるのかというベースの見直しが必要である。

- ④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

担当者や構成メンバーが変わると、引継がうまくいっていないわけではないが、これまでの培ってきた情報がうまく伝わらずに、また、活用できずに一から始まるような格好となる。もっと校内での情報交換や引継をうまく行い、更に深まったものとし、外に向かって情報を発信したいと考えている。

- ⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ホタテ養殖体験学習では、大島漁業協同組合の青年部の方々のご協力をいただいている。体験当日は、朝早くからの準備や生徒の活動以後の後始末まで行っていただいている。日々においても、筏そのものやホタテの管理・生育なども見てもらっている。

- ⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

できれば多くの関わりや連携をもち多くのことに取り組んでみたいが、学校の生徒数などを考慮すると時間的に、また、離島という移動手段が制限された環境で、交流推進は厳しい状況である。そこで、ホームページの充実を先を図り、学校からの発進力を「高めるプロジェクトを開始したところである。

- ⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

海を活用した交流活動がある。目黒区立東山中学校1年生 140名との本校全校生徒37名の交流活動である。人数や学年のアンバランスがあり、その中での思い出に残る活動を計画・実践した。本校は、学校規模が小さいため、全部で200名（教師等を含む）活動をなると校地内等では活動が十分ではなくなるので、海を活用することにした。震災前からの交流ではあったが、震災の時にも来島してもらい元気をいただいた関係もあるので、震災関連の共通のテーマを見つけ出し交流活動を行いたいと考えた。震災で傷ついた方々へメッセージを発信しようということで、海に向かって、砂に文字を書いて、その気持ちを伝えようということで砂文字制作を行った。「心をひとつに」というフレーズをみんなで作り上げた。

単純フレーズと造形的には単純な制作物であったが、生徒たちにとっては、非常に思いで深きものになったことが振り返りのレポートからも伺えた。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

30年後の大島を考えようと、水産、海事、観光を中心に学習を展開する。主なものは以下の通りである。

大きなものでは、遊覧船による島巡りを計画している

- ・海から見た大島
- ・養殖筏等は、条件によって仕掛けられる場所の創意工夫
- ・観光スポットとなる光景はないか。
- ・乗客を乗せる船はどのようにして運行してるのか。

など課題を見つけさせ、体験活動だけにならず、そこから探究的なものとし、更にその追究が、発信の方法も考え発信させたいと考えている。